

環境と共生した社会づくり

For the society in harmony with the environment



NTT西日本グループの地球環境保護活動と地域社会に果たす役割

関連するSDGs



NTT西日本グループは、環境保護を推進し、地域社会の発展に貢献する取り組みの一環として、京都三大祭の「賀茂祭」(葵祭)で使われ、近年激減しているフタバアオイを保護・育成する「葵プロジェクト」に協力しています。2017年6月、かもわけいかづちじんじや賀茂別雷神社、通称「上賀茂神社」で、全国の小学校等の教育機関やさまざまな団体が育てた葵を里帰りさせる「葵植栽会」の後、上賀茂神社の田中安比呂宮司、乾光孝権禰宜にご参加いただき、NTT西日本グループの地球環境保護活動や地域社会に果たす役割について、話し合いました。



田中宮司 葵祭に葵を飾るようになった由来は、「葵と桂をたくさん束ねて飾り、お祭をすれば、賀茂別雷神が無事に天から降りてきてくれますよ」とのご神託で、1450年前から変わらず守り続けているのです。

乾権禰宜 葵の減少については、気候変動にともない潤潤な土地が減ってきたためとも考えられています。植栽活動に助けられながら葵祭を続けているのが現状です。

原課長 NTT西日本はグループ会社も含めると約5万5千人規模です。30府県に支店があり、事業展開で地球環境に与える影響も大きくなっています。

佐々木支店長 まずはNTT西日本グループ社員が率先して活動するとともに情報の発信にも努め、多くの方が地球環境保全に積極的に取り組める社会になることを願っています。また、私たちは葵の植栽だけではなく、「葵サミット」という、地域の小学生が葵を育てることを通じて、自然環境の保護や文化継承等について勉強する機会もご提供しています。

乾権禰宜 京都の上賀茂神社をキーステーションとして、静岡県静岡市と浜松市、福井県鯖江市、東京の各会場をTV会議システムでつなぎ、葵の交流学習会を行うというものです。

田中宮司 静岡の葵小学校の皆さんは当神社から株分けした葵を校内で一生涯懸命育てて、5月の葵祭の時にはその育てた葵を返しに来てくださいます。その成長具合等について子どもたちが学習し、インターネットを活用して年1回、報告会をしているのです。

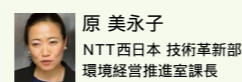
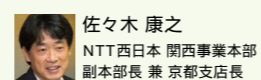
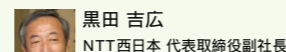
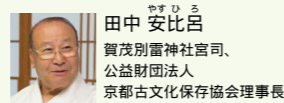
乾権禰宜 葵使という、静岡の駿府城に葵を届ける儀式があります。今回は「つなぐ」という意味合いを大切に、各支店で

つないでいただけませんか」と、NTT西日本 京都支店にご提案したところ、快くお受けいただきました。京都支店から出発し、静岡支店経由で駿府城に届け、そして静岡の葵小学校の生徒にその葵を育てていただき、最終的に当神社が執り行う葵祭に届けていただいたのです。「つなぐ」ことの大切さ、素晴らしさを伝えることができました。

黒田副社長 私たちは電話やインターネットをつなぐことを使命としていますので、葵をつなぐプロジェクトに協力させていただけるのは、本当にありがたいですね。

田中宮司 葵の植栽活動に企業からお力添えをいただいたのは7年前。NTT西日本グループが最初です。ご家族連れで参加いただけるのも嬉しいですね。自分が幼いころに植えた葵が賀茂祭を彩ったという体験を、子や孫に語り継いでいただければ嬉しいです。

黒田副社長 私たちも知恵を出し合い今後も環境保全に力を注いでいってほしいとの思いを改めて強くしました。祭や神社が繁栄し、それが私たちの成長や繁栄にもつながれば幸いです。



環境経営の推進

基本的な考え方

NTT西日本グループは、社会全体の環境負荷低減に貢献する企業をめざし、ICTを活用した環境負荷低減や環境問題の解決に取り組み、地球規模での環境問題の解決に努めます。

NTT西日本グループ地球環境憲章

基本理念

人類が自然と調和し、未来にわたり持続可能な発展を実現するため、NTTグループ地球環境憲章に則り、NTT西日本グループはグループ会社と一体となって、全ての企業活動において地球環境の保全に向けて最大限の努力を行います。

基本方針

1. 法規制の遵守と社会的責任の遂行
環境保全に関する法規制を遵守し、国際的視野に立った企業責任を遂行します。
2. 環境負荷の低減
温室効果ガス排出の低減と省エネルギー、紙等の省資源、廃棄物削減に行動計画目標を設定し、継続的改善に努めます。
3. 環境マネジメントシステムの確立と維持
各事業所は環境マネジメントシステムの構築により自主的な環境保護に取り組み、環境汚染の未然防止と環境リスク低減を推進します。
4. 環境技術の普及
ICTサービス等の研究開発成果の積極的な社会への普及を通じて、環境負荷低減に貢献します。
5. 社会支援等による貢献
地域住民、行政等と連携した、日常的な環境保護活動への支援に努めます。
6. 環境情報の公開
環境関連情報の公開により、社内外とのコミュニケーションを図ります。
7. 生物多様性の保全
生物多様性と事業との関わりを把握し、生物多様性を将来世代に引き継ぐ為に、取り組みを推進します。

環境マネジメント推進体制

NTT西日本グループでは、「環境保護活動を推進することは社会とともにある企業の社会的責任である」という考えのもと、「NTT西日本グループ地球環境憲章」を制定し、地球環境の保全に努めています。この憲章に従い、さまざまな環境貢献指標の管理方法をISO14001を参考に「実

行管理プログラム」として編成し、数値による実行度の管理を行っています。また、各組織における環境法規制の遵守状態、実行管理プログラムの実施状況等、環境保全対象の定着度を各組織が自ら検証することを目的として、環境セルフチェックを年1回実施しています。なお、この環境セルフチェックを客観的な見地から実施するため、監査部門による環境監査を実施しています。

グリーンNTT西日本戦略

NTT西日本グループは電力エネルギーを大量に消費する企業として、自ら積極的に省エネルギーや環境問題に取り組んでいくため、以下を柱としたグリーンNTT西日本戦略を2012年6月に策定しました。

環境グランドデザインの達成

自らの環境負荷を低減することで社会に貢献します。

環境・エネルギー事業の展開

ICT活用による事業活動の展開で環境に貢献します。

生物多様性保全活動の推進

社員一人ひとりが、地域の生物多様性保護へ貢献します。

環境グランドデザイン

NTT西日本グループでは、低炭素社会の実現と、循環型社会の形成に向けて、特に電力使用量削減目標と紙使用量削減目標ならびに廃棄物最終処分率目標を「環境グランドデザイン」として策定しています。

電力使用量削減 2020年度までの目標)

自費電力：2010年度比40%以上削減
総電力：2010年度比20%以上削減

紙資源削減 2020年度までの目標)

総紙使用量：2008年度比40%以上削減(2008年度：3.99万t)
一人あたりの事務用紙使用量：2008年度比50%以上削減(2008年度：0.99万枚)

廃棄物削減 2020年度までの目標)

全廃棄物合計の最終処分率：1.0%(ゼロエミッション)(2008年度：2.1%)
撤去した通信設備廃棄物：最終処分率0.1%維持

国連大学が提唱した構想で、産業から排出されるすべての廃棄物や副産物が他の産業の資源として活用され、全体として廃棄物を生み出さない生産をめざそうとするもの。NTT西日本グループでは、最終処分率1%以下をゼロエミッションと定義。

マテリアルフロー



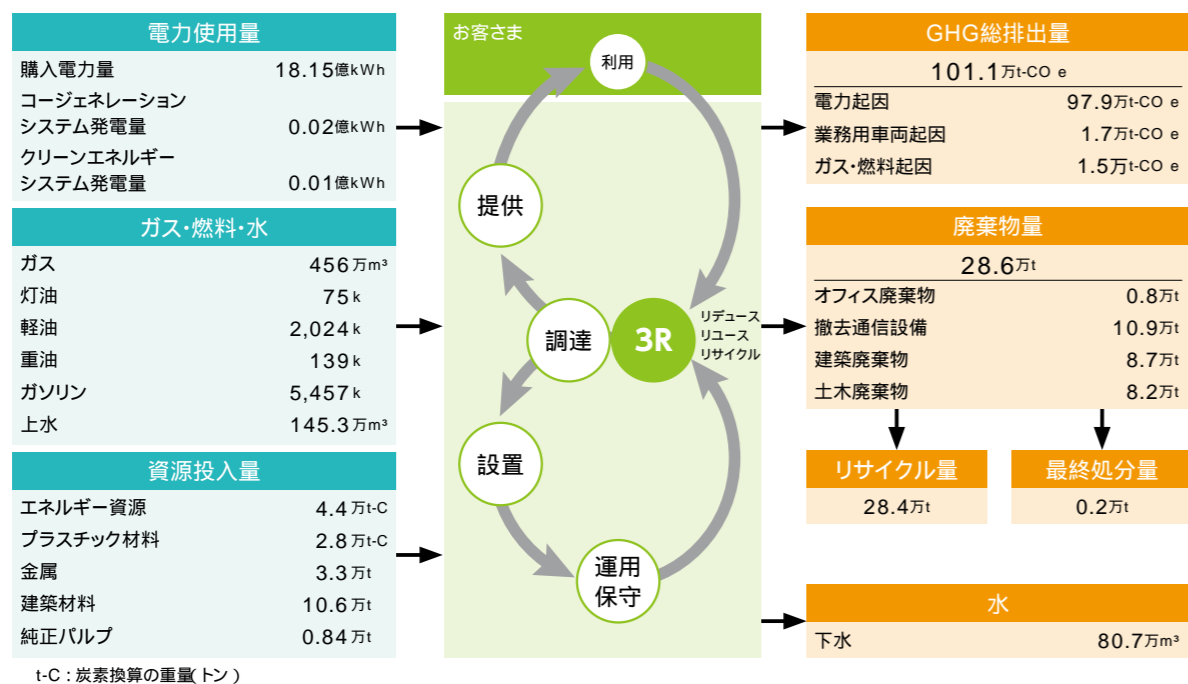
西日本全域で事業を展開するNTT西日本グループは、事業規模も大きく、それだけに相当の環境負荷を与えています。

たとえば、お客さまの通話を可能とするためには、電話機、西日本全域に張り巡らされた通信ケーブル、および交

換機等のネットワークが必要となり、それらに関する物流、工事、運用、サービス、商品の提供といった事業活動には大きな環境負荷が伴います。

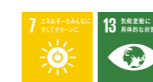
NTT西日本グループは、下図に示すように、マテリアルフローや温室効果ガス排出のスコープ3(自社の排出以外にNTT西日本グループの事業に伴うお客さまやサプライチェーンでの排出)について定量的・定期的把握し振り返ることにより、継続的な環境負荷の低減に役立っています。

マテリアルフロー



t-C : 炭素換算の重量(トン)

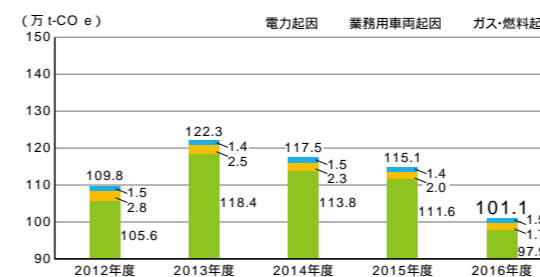
気候変動対策



温室効果ガス排出削減

NTT西日本グループの温室効果ガス(GHG)排出要因としては、電力使用、業務用車両使用、ガス・燃料使用があり、電力使用が要因の大半を占めています。2016年度は、2015年度に比べ約9,000万kWhの電力使用量を削減しています。

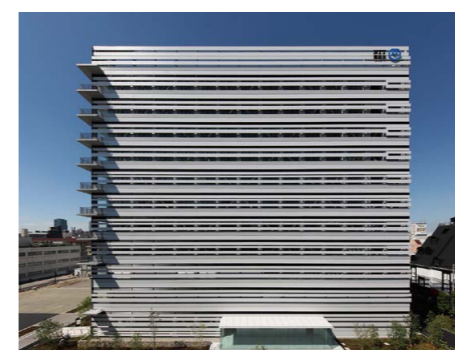
GHG総排出量の推移



環境負荷に配慮したエコビル建設(新京橋ビル)

2017年9月に、NTT西日本のエコ・省エネルギー対策の一環として、新京橋ビルが完成しました。おもな特徴は、極力機械エネルギーに頼らない自然換気、貯蔵雨水の再利用、LED照明搭載、無線個別調光照明制御システム導入、自然採光の利用、地中熱の利用等、ビル全体を通じて環境負荷の低減を図っています。これにより省エネ無施策ビル(CASBEEレベル3)と比較して、一次エネルギー量が32%削減、ライフサイクルCO₂で26%削減の効果が見込めます。今後はICT技術を活用したスマートビル化を検討していきます。

建築物の環境性能で評価し格付けする建築環境総合性能評価システムにおける評価



新京橋ビル

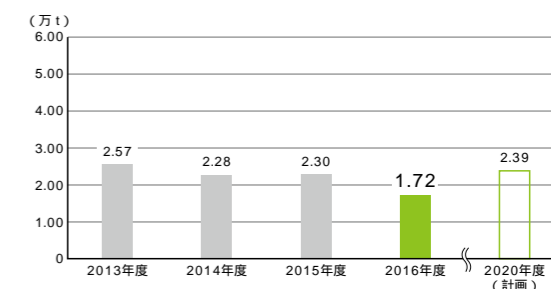
環境負荷の低減



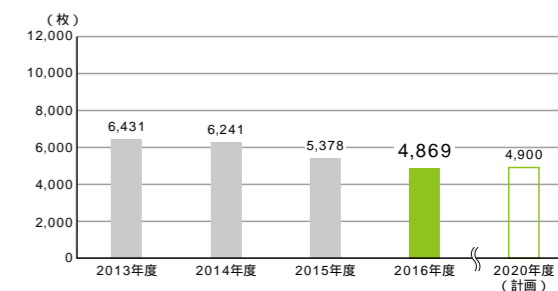
紙使用量削減

NTT西日本グループで使用する紙には電話帳、請求書、事務用紙、電報があります。2016年度の総使用量は1.72万tで、内訳は電話帳1.39万t、請求書0.17万t、事務用紙0.13万t、電報0.03万tです。ペーパーレス会議の徹底や社内利用用紙のシステム化による徹底的な削減等を進めるとともに、お客さまのご協力を得ながら、請求書の有料化等により紙使用量の抑制を行っています。

紙総使用量



1人あたりの事務用紙使用枚数

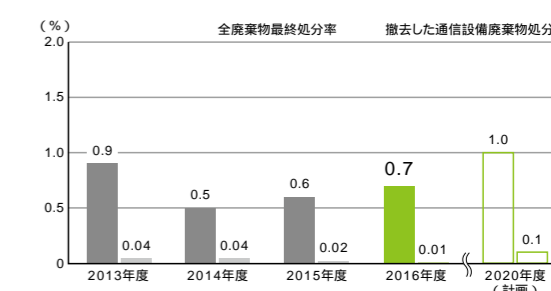


廃棄物最終処分率低減



廃棄物には、撤去通信設備廃棄物、土木工事廃棄物、建築工事廃棄物、オフィス内廃棄物が含まれています。2016年度の廃棄物の最終処分率は0.7%で2012年度から5年連続でゼロエミッションを達成しました。内訳としては、撤去通信設備廃棄物の最終処分率0.01%、土木工事廃棄物の最終処分率0.9%、建築工事廃棄物の最終処分率1.2%、オフィス内廃棄物の最終処分率0.6%です。

廃棄物最終処分率

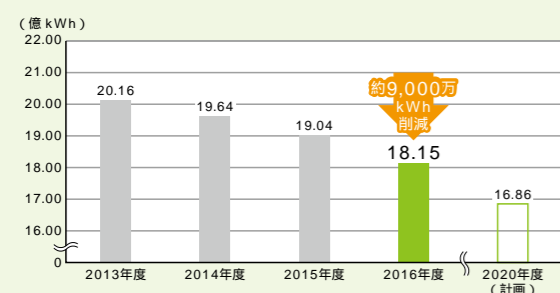


TOPIC

電力削減に向けた取り組み

NTT西日本グループでは、化石燃料由来の電力を大量に消費する企業の責務として、環境問題の解決に積極的に取り組んでいます。グリーンNTT西日本戦略のもと、環境負荷低減の中長期計画である「環境ランドデザイン」を定め、2020年に2010年度比20%以上(自社利用の電力使用量は40%以上)電力削減するという目標を達成するため、2016年度は、節電につながる設備の導入等を数多くの拠点で推進し、一般的な家庭で1年間に使われる電力消費量の約28,000世帯分にあたる約9,000万kWhの電力を削減しました。

電力使用量の推移



電気事業連合会 一世帯あたり電力消費量の推移

http://www.fepec.or.jp/enterprise/jigyoku/japan/sw_index_04/index.html

2013年度の1カ月あたりの平均電力消費量は271kWh 271kWh x 12カ月 = 3,252kWh 9,000万kWh ÷ 3,252kWh = 2.77万件

小規模機械室向けSmart DASH(mini DASH)の導入
これまで、データセンタの使用電力削減のため、NTTファシリティーズが提供するAIを活用した空調自動制御システム「Smart DASH®」を導入してきました。2016年度は、機能とシステム構成をシンプル化した小規模機械室向けSmart DASH(mini DASH)を導入しました。これまでに約300ビルに導入しており、複数拠点の温度管理と空調機群制御をAIにより一括して行うことにより、空調電力を削減する等、さらなる節電につなげました。

mini DASHのイメージ図

